

~~3274~~
2/29/1974

二月二十九日

日記を記入するある年手紙を一月二十九日の夜返すのであった。

三月十日の夜 かなり色々と忙しいことだった。

二月十日は哲の結婚で 成城の ヨシギコラン 吉佐十蘭女史(長嶋の先

宅に伊藤松子と西野 岡本喜八夫妻、哲と私と 集

極々さうやかなすませました。

これと合わせて四月三日の結婚式の打ち合わせなどで何回

か会合をまねたり、岡本ママのお母さんの葬式に行ったり、

朝子嬢の長嶋の会に顔を出したり 零い等とも云つてら

れるい 英冬おした、幸い私は大隻元氣で 家の雑用は

ゆとりをさせてあげ、帰らぬらすん横にらつて 何み健康の官

理に注意しておますからゆ安心を。

次々 彼ら二人の信辰の問題で、あれやこれや色々と話し

合の考となりで、結核 二階の二間を改造して 炊事

場と洗面所をしつらえる事、決りました。アパートやマンション

ま借りるなどとゆうことはとても出来ぬい相漢です

現在 ちるものに付けたら加之をすよしかありません。公団の
 家賃が今年は3DKで五万円を越えるという。大抵又
 ことです。まじや民間のちよりと一高級アパートは十万近く出
 さぬはちりません。東京の住宅問題は地獄の様相をのびる
 僅かニ階を改造するだけでも百万近い算なるです。

こんなことなので とうとうあるとシムか来たかれることも嬉し
 いけれど一は心配もあるわけ。シムを今更には このあき苦

しい木造家賃のしかも階下の生活させるかと思つくと本
 当に心苦しい言葉かします。

もしシムが承租するなら、あな一人だけの歸國はどうで
 しょうか。或期内離れて暮してやること。夫婦にとつて 豊人堂
 なことではないでしょうか。

ゆわかに三ヶ月足らずで、しかしゆうなれば、あななホームをいりま
 のやすあんに又々大金を消費するとは台無しと育つた。この日本

の差すには何か勿体ないと思ふ所のりです。 それらの経験は

ある方二人の将来のための積立てにしてもらいたいのです。

一昨年は日本 今年は地中海 来年は又々日本

と、日本の若い夫婦たちは、その旅を繰り返して、主眼しかるばかり

りです。 悠更夫婦も外国旅行など思ふもふらふ事です。

お金とゆうものは魔物で使ひあすと、ますます他管かなく

アツとゆうまゝにたぐらうてしまひます。 甚だ申すのイヤレの中で

日本は島も要領のイヤらしいのです。 暮ら申す一室の収入

のないおかにのいお計は、あきしめるおけ、あきしめるければ、あきす

大妻百ことです。 てもその為には、心のゆとりを失つては大妻又。

たまにお文さんの寛さを思ひあしてあります。

順子も公務員とゆう組織の中から出て、好きな道を極め

る意欲は強いのですが、その対面知性怖症的性分は、編集者な

るといふ話か、うまく行のなかつたりするらしく、あちう山のよう

な大量の書籍も空しく、心の底に静まり返つてゐるわけだ。

去年一月内僅かに中篇小説も二篇だけ発表。『使と

人物』は発表しなけり。此で本人はそれらの階級の色も

不満の色も現れようともせず、毎日を遅くと過して

ゐるやうです、これこそ本當に春日遅々と呼ぶ可い。

折々の結婚式につても、私はなまなくつまらない形式にお金を

使ひたくないのですが、相手の伊勢屋が常識に於てある

ため、折と折は心なうおし、その慣例的なやり方に従う

わけです、葬式は私がおたげのことで、いかにむかへますか

結婚式は両方からの、か、わり合ひのものですから困ります。現代

の日本の結婚式は世界で最もつまらないエッセーのようです。

三月は十日おむかひに確定申告を、いそがしくなりました。今日は

有り多き近況報告と書つた次第です。

座卓と椅子ニケは一月二十日のほたか丸で、エカゴは陸上バス

水たまりのこと、(東京本店から)もうお家を着いておますか。

三月十日頃からは大工の仕事もはじまりました。三月定どです。

勝手なことを云つて、困らせないこと。
エカゴおせさん、いそがしを、使つてあげて下さい。

売ります。

おし